

選別除草の効果

選別除草では外来種を取り除く事で、本来この地域で生息する在来植物が見られるようになります。従来の管理では繁茂した草本類を草刈として刈っていましたが植生調査をした結果、様々な在来種があることがわかりました。1年を通し観察することで時期毎に植物の開花・結実を確認し、管理する事で在来種は増えていきます。また新たに出現することもあります。外来種の除去と言っても長年のこぼれ種などで簡単にはなくすことはできませんが、継続することが大事だと思います。

四谷地域の緑地と言っても同じ種類の草本類もありますが、すべてが同じというわけでは無く特色も見られます。

ウマノスズクサ



ウマノスズクサの花



ジャコウアゲハの♀



ジャコウアゲハの幼虫



四谷地区（自然樹林・下堰緑地）ではウマノスズクサが自生し、ジャコウアゲハがみられる。

ウマノスズクサは東京都では絶滅危惧種Ⅱ類になっています。今後も注視し保全に努めたいです。

今のところ自然樹林でしかみられないウラシマソウとアマナ

ウラシマソウ



アマナ



南通緑地では選別除草を開始した2020年時点では見られなかったオカトラノオ
2022年6月に発見しました。



昨今、外来タンポポや雑交配したタンポポが多い中、北通緑地ではカントウタンポポがみられます。

